



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2021年12月27日 第1050号「週刊五十嵐レポート」

## 「一陽来復」(いちようらいふく)

冬至(今年は12月22日)は1年間で太陽の位置が最も低くなる日であり、1年間で日中が最も短くなり、冬至を境に太陽が生まれ変わり、陽気が増え始めるとされている。古代中国の周王朝では冬至を1年の始まりとしていた。「一陽来復」(いちようらいふく)とは、冬至を意味し、新年の到来、悪い事が続いた後で幸運に向かう事、陰気が極まった後に冬至を境に陽気に向かう事を意味した。

中国古典に「易経」がある。その中に冬至占(コイン占)を教えてもらった。冬至に10円玉5つと100円玉1つで占う。(当たるも八卦当たらぬも八卦)

経営者A氏は「地天泰(ちてんたい)」(天地和合の物語)。陰と陽の交流が盛んになることで、全体が活性化して新たなエネルギーをどんどん生み出す。冬の時代に勢力を奮った陰の小人が去って、新しい時代をつくる陽の大人が集まる。A氏は最近経営に対する考えの違うスタッフと話し合った結果、そのスタッフは会社を去った。その後、考え方に共感した人を採用した。

経営者B氏は「水天需(すいてんじゅ)」(時を待つ物語)。世の中には物事がうまく行かないことがある。そのような時に焦って無理やり進もうとせず、待つことが大切。前に進むことを前提にその時が来るまで英気を養う。B氏は、ダントツの1位作りを目指し、「安全、品質、対応力」に対し時間をかけて商品サービス力を強化。徐々に成果が出てきている。

経営者C氏は「山水蒙(さんすいもう)」(教えと学びの物語)。教育の目的は相手の眠っている能力を引き出し、個性を育むこと。物事を知らない無知な者に包み込むようにして受け入れる。導く者と導かれる者の信頼関係が教育を成り立たせる。C氏は数年前から社内スタッフにDVDを活用して社内研修をはじめた。来年から新人が入社。教育カリキュラムを作成して対応する。

易経は当たる、当たらないではなく、経営者はいろいろな境遇に出くわす。その時々的心情として参考にすると良い。この2年、コロナ禍にあって、激変してきた。易経は言う、世の中は絶えず変化する、その変化には法則性がある、その法則性を掴むと実はシンプルに生きやすくなると。

ちょっと  
気になる出来事

12月20日付、日経新聞「経営の視点」は「流通、11兆円支える270社と3社」という記事。

スーパーとコンビニの各市場規模は約11兆円とほぼ同じ。企業数ではスーパーは約270社、コンビニは3社で約9割占める。スーパーは熾烈な競争を演じているかといえば主要都市などの局地戦を除くと、そうではなく、すみ分けが進んでいる。コンビニは寡占でも厳しい競争にさらされている。

この違いは、「多様性と同質性」の差。

国土が狭いニッポンだが、地域ごとに食文化、食習慣が違う。川一本挟んだだけで味噌醤油の味や色が異なる。餅の形も丸や四角、水の違いもある。味噌醤油メーカーがそれぞれ約1000ある。

スーパーには、地域との共存、奉仕、恕(じょ)の精神、誠実さなどの持続的な考えを盛り込んでいる会社が多いという。

コンビニは、狭い売り場で高速回転で人気商品をさばき続けて利益を稼ぐ結果、「同質化」に陥る。

全国と地域。小さな会社は地域に根差すことが大事なんだな。



一口メモ  
知識

## 易の三義

「易」は一字で変易・不易・易簡の三つの意味を持つ。これを「易の三義」という。

「変易」—森羅万象、すべて一時たりとも変化しないものはない。

「不易」—変化には必ず一定の不変の法則性がある。

「易簡」—その変化の法則性を我々人間が理解さえすれば、天下の事象も知りやすく、分かりやすく、人生に応用するのが簡単である。

宇宙は刻々と変化してやまない。時は巡りめぐって一時たりとも止まず、すべての物事は変化し続ける。ゆえに「変易」である。

また、森羅万象は刻々と変化するが、そこには必ず一定不変の法則がある。

「易簡」は「簡易」ともいわれる。易しくてシンプルで簡単という意味である。すべてのものは変わる。その変わり方は一定不変の法則があって、その法則は変わらない。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

